

ミヤマオダマキ

キンポウゲ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

Aquilegia flabellata Sieb.et Zucc.var. *pumila* (Huth) Kudo

国カテゴリー

該当なし

選定理由

白山の高山帯の希産種である。産地もごく限られている。(現況:RO)

形態

根出葉は数枚あり、2回3出複葉で小葉は扇形、先は2~3裂する。茎頂に1~数個の花をつける。花は下向きに咲く。萼片は青紫色、花弁は先のほうの半分は白色、基部はから距にかけて青紫色で先は内側に巻く。

国内分布

北海道、本州中北部に分布する。

県内分布

白山高地地区の2400~2600mの高山帯に分布する。

生態など

高さ10~25cmのやや小型の多年草である。主根は太く長く垂直に伸びる。開花期は7~8月。花色は鮮紫色で美しい。果実は袋果でふつつ無毛である。

生育環境

開けた岩場や小礫、中礫を交える崩壊地に生育する。

危険要因

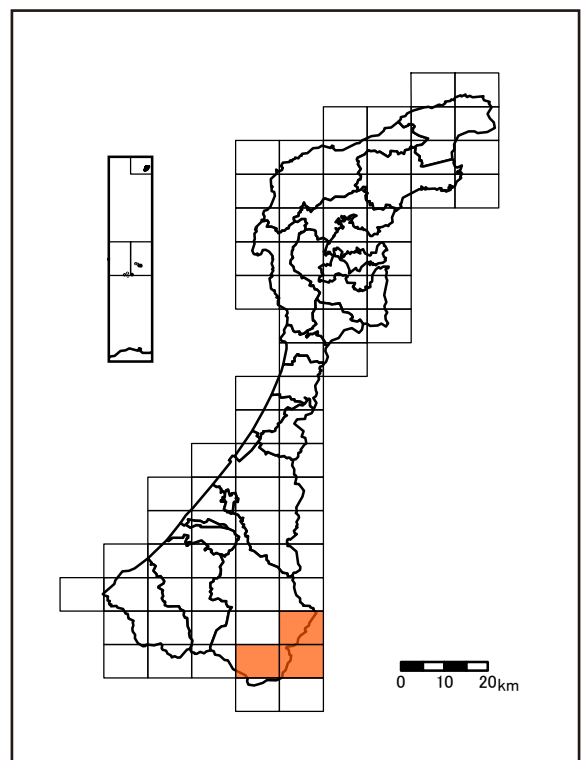
踏みつけ、自然遷移、産地局限。

特記事項

生育地は白山国立公園内にある。観賞用に栽培されているオダマキ(*A. var. flabellata*)はミヤマオダマキの改良品とみられており、ミヤマオダマキより大きく、葉は厚く粉白色を帯びている。



白井伸和・2006年8月12日・白山



県内の分布